

放射性セシウムのイネへの移行（第4報）

根本圭介

東京大学大学院農学生命科学研究科・栽培学研究室・教授

研究科復興支援 WG の作物生産・土壌グループでは、現地圃場における栽培試験、大学における室内実験、農家圃場でのサンプリングなどを通じて、水田環境との関わりを含めたイネへの放射性セシウムの移行の仕組みの解明に取り組んできた。特に、福島県伊達市小国地区においては、福島大学、東京農業大学、市および地元住民組織と連携し、イネのセシウム吸収要因解明に向けた試験栽培を行ってきた。前回の報告会では事故翌年の試験結果を報告したが、今回はその後2年間にわたる追跡調査の結果を含めた試験栽培3年間の知見をまとめて報告する。

主な研究従事者：作物生産・土壌グループ（栽培学研究室、森林利水及砂防工学研究室、放射性同位元素施設、生態調和農学機構）、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（石井秀樹助教ほか）・東京農業大学土壌学研究室（後藤逸男教授ほか）、野川憲夫助教（東京大学アイソトープ総合センター）、伊達市産業部農林課。



写真 事故翌年から3年間にわたり試験栽培を実施した伊達市小国地区。